

未利用食品資源のアップサイクル飼料 製造技術確立と性能検証

代表機関：国立大学法人信州大学
実施年度：2026年度～2027年度（フェーズ1）
キーワード：カーボンのクレジット、簡易乾燥

研究代表者：上野 豊



地域の未利用食品資源の活用拡大と、畜産現場における飼料価格高騰・GHG排出削減への対応が求められているなかで、本研究では低コストかつ付加価値のある「アップサイクル飼料」へ転換する技術を開発します。そしてこのアップサイクル飼料がもたらす価値を、経済効果（生産性）と環境負荷軽減効果（GHG低減効果）の両面から評価します。

背景・目的

現在の畜産経営には、持続性と環境対応の両方が必要

酪肉近* が目指す方向性（一部） *酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針(2025年4月策定)

・生産コスト高への対応
・国産飼料の生産・利用拡大

安価な飼料資源の発掘と利用

・持続的な畜産の推進

GHG排出削減可能な飼料

食品資源の飼料利用は有力なツールですが、

- ①多くの原材料は高水分
 - ②成分も量も不安定・季節変動
 - ③飼料成分と機能性成分が混在
- といった課題解決が必要です。

目標

エコ「だけではない」飼料を実現する

（フェーズ1終了時目標）

（終了後1年以内の目標）

【実規模飼料加工技術確立と性能実証】 ----- 初期フォーカス市場に対応した実生産施設着工

【未利用食品資源中メタン抑制成分抽出工程完成】 -- 開発メタン抑制素材を用いたJクレジット方法論申請

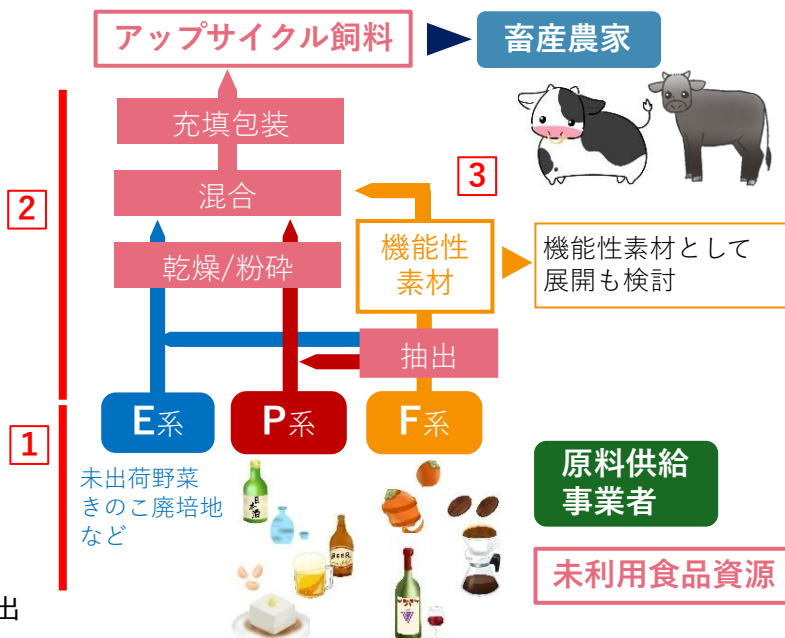
研究内容

3つの技術シーズを統合してサプライチェーンを構築する

多様な**未利用食品資源**の乾燥・加工技術と機能性素材の効果的な抽出技術を確認するための研究開発および性能実証を行います。

「**低コスト加工**」「**成分保証**」「**メタン抑制**」の3つの技術シーズを統合し、経済性と環境価値を両立する**アップサイクル飼料**の事業化と畜産農家へ供給するサプライチェーン構築を目指します。

- 1 多様な原料の受け入れ
- 2 乾燥・加工
- 3 メタン抑制に資する機能性素材の抽出



<代表機関概要> 国立大学法人信州大学 農学部

■HP: <https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/>

■所在地: 長野県上伊那郡南箕輪村8304

■連絡先: ytkuyeno[アット]shinshu-u.ac.jp *[アット]->@です

2026年6月19日時点